

資 料

学生による授業評価を行うための予備的探索

池 田 進

A Preliminary Survey for a Classwork Assessment by Students

Susumu IKEDA

Abstract

The author carried out a preliminary survey for a classwork assessment of students in his class. The procedures for the survey are described here. Some details of the results of the survey will soon be reported.

Key words : classwork assessment, faculty development, teaching method, university education.

抄 録

この報告は、学生による授業評価をおこなうときに起こるかもしれぬ実施上の諸問題に対処するための予備的探索についてのものである。今回は筆者が実施した予備調査の方法、手順と結果の一部について報告する。より詳細な結果と分析から見いだされる問題点については次回に報告する。

キーワード：授業評価, ファカルティ・デベロプメント, 教授法, 大学教育

(1)

前号拙著小論(池田, 1999 脚注参照)では, 1991年(平成3年)7月の文部省令第二十四号(いわゆる大学設置基準の大綱化)によってファカルティ・デベロプメントと自己点検・評価が義務づけられたことを述べたが, これらの事柄の内容が1999年9月の同省令の一部改正によってさらに明確に位置づけられた。すなわち, ファカルティ・デベロプメント(以下FD)については, 「教育内容等の改善のための組織的な取組」として, 「大学は, 当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めなければならない」(第25条の2)こととし, 自己点検・評価については従来の規定に加えて, 「また, 大学は, 自己点検及び評価の結果について当該大学の職員以外の者による検証を行うよう努めなければならない」(第2条第3項)こととした。

殊に, 「当該大学の職員以外の者による検証」を努力規定として置いたことは, 点検評価が大学・学部自身による自己点検と評価以外に相互評価(たとえば大学基準協会などによる)や他者評価(第三者機関による)を要求したことを意味するとともに, 学生による大学評価とくに授業評価を要求したことをも意味すると理解せねばならない。

先日おこなわれた文学, 社会学関係視学委員による実地視察の講評においても, 委員は本学が相互評価を受けたことを評価し, あえて「点検評価」という言い方をしながら, 学生からの聴取にもとづいて学生のニーズをよみとることと共に, 教育実践に対する学生による評価にも敏感であらねばならないことを示唆している。本学側も視学委員によるFD全般についての指摘をうけて次回には「FDも学生の評価もカリキュラム編成等も今年よりは少しましな結果を報告できる」ことを約束している。

学生による授業評価をめぐるのは, 1999年11月17日付の『全学共通教育推進機構(仮称)の設置に関する骨子について』(案)が重要である。すなわち, 同「機構」の下部組織として①教養教育部門, ②インターファカルティ部門, ③FD部門, ④授業評価部門, ⑤免許・資格部門の各部門委員会を設けること, そしてその機能の推進にあたっては, 大学協議会の役割を活かすことを提案している。

大学協議会の役割について, 気づく者は早くから気づいていて敢えて口にしなかった重

池田 進 大学教育をめぐる「ファカルティ・デベロプメント」の諸問題。関西大学『社会学部紀要』, 1999, 31(No.1), 123-138。

要点は、協議会が「学則上大学院委員会の審議事項及び学部教授会の審議事項と定めたものであっても、学長が特に教務統括上必要と認めた事項」（関西大学大学協議会規程第4条2）について協議すべきこととしている点である。本学はいままで協議会を慣例的にほとんど機能させていなかった。今回それを規程に沿って機能させようというのであるから、そこには、建物になぞらえていうならば、増築や改築という姑息なやりかたではなくいったん更地にして基礎から建て直すほどの意識が必要であるといっても大げさすぎはしない。事に際して、先人が営々として培った本学百年の知恵と今に在る教員一人ひとりの良識が試されることになろう。

(2)

いま、学生による授業評価に限定して言及するならば、それが何のためにあるのかがまず明確にされなければならない。その目的が、学生の自学自修を支援するような授業をつくること、そして学生が主体的に授業に参加することを促すことにあるという力の置き所をはっきりさせておかなければならない。そのための評価であるから、評価のあり方は担任者が担任する科目、配当年次、必修か選択か、授業の形式、クラス人数、時間割、使用する教室等に相対的である。また、評価の結果を担任者が自己の能力開発にどのようにフィードバックするかが重要事であるから全体一律のやり方があるとは思えない。この一番大事な目的を見落としてしまうと、評価項目のたてかたがどうの、評価の客観性がどうの、公平性がどうのというまさに教員サイドの矮小化された不毛の論議におちいってしまうだろう。いま要求されるのは、教員一人ひとりの創意工夫であると考ええる。

上に述べたような状況を予感しつつ、筆者は先年に、筆者が担任する『心理学概論』の講義に対する学生による授業評価の実施方法について予備的な試行をおこなった。その経験をふまえて、1998年度（平成10年度）末、すなわち1999年の1月に最後の授業時間を利用して、以下に報告するような形で本試行をおこなった。

(3)

授業評価の対象は筆者担当の『心理学概論』（講義、2年次配当選択科目、月曜日5時限、社会学部学舎R101）である。

まず学年始めの最初の授業で、受講生に対して今年一年の授業計画についてやや詳しく説明し、つぎに学年末の試験の方法について説明し、授業に対する受講生による授業評価を行うことを予告した。

授業評価にあたっては、責任ある評価ができるように授業にはできるかぎり積極的に出席参加することを促した。評価を記名にするのか無記名にするのかは学生に選ばせた。学生のおおかたは記名すべしとの意見であったので、評価票には学籍番号と氏名を明記させた。結果は、提出された評価票のうち無記名が3票、無責任な偽名もしくは仮称をもちいた者が2票であった。

評価の対象は、授業計画に示したテーマの区分にしたがったテーマごとの評価と、1年間を通じた授業の全体についての評価に分けた。実施の要目はつぎのとおりである。

I. テーマごとの評価

① テーマの区分はつぎのとおり

- 序 心理学の歴史と方法／「心理学」という用語、「心」の概念の変遷、など
- 1 神経行動学／行動の制御システム、神経系の構造とはたらき
 - 2 適応行動／走性、反射、姿勢の制御、到達動作、移動行動、など
 - 3 初期経験の効果／先天性解発機構、刷り込み、愛着行動、初期学習
 - 4 環境世界の認知（このテーマは省略した）
 - 5 意図的学習／条件付け、オペラント学習、課題解決学習、見通し学習、など
 - 6 動物と幼児の実用的知能／環境世界の再構成、道具の使用、道具の製作
 - 7 工作人的知能／道具から工具へ、言語の役割、環境世界の意図的操作
 - 8 論理的知能／思考と身体の分離、論理と環境世界、概念的思考

② 評価項目はつぎのとおり

- (1) テーマと目的は明確であったか
- (2) 解説の仕方は分かりやすかったか
- (3) 話された内容に興味を持てたか
- (4) 話された内容が理解できたか
- (5) 授業に出席したか
- (6) 時間外の子習・復習をしたか
- (7) テーマに関連した読書や研究をしたか

③ 評価法はつぎのとおり

5（良い）～1（悪い）の5段階評定尺度による

II. 1年間を通じた授業全体についての評価

① 評価項目はつぎのとおり

- (1) 心理学を知るうえで講義は役にたったか
- (2) 講義のレベルは適切であったか
- (3) 講義の技術面はどうであったか
 - イ 声の大きさは適切であったか
 - ロ 話し方の速さは適切であったか
 - ハ 話し方、言葉づかいなど聞き取りやすかったか
 - ニ 資料、映像などの提供は適切であったか
 - ホ 板書は適切であったか
- (4) 教室の設備・環境について
- (5) 私語について

② 評価法はつぎのとおり

各評価項目につき2ないし4個のチェック項目による評定と自由記述

III. その他、授業のあり方について

自由記述

上記に沿ってB4判用紙の表裏にわたる評価票を作成した。評価票の体裁は末尾に示した。

(4)

学年末試験の受験者数は519名（2年次生259名，3年次生216名，4年次生以上44名），評価票の提出者数は312名であった（この中には受験したが評価票を提出していない者，評価票を提出したが受験していない者が含まれている）。

提出された評価票の内訳はつぎのとおりである。

①学年別

2年次生	167票
3年次生	123票
4年次生以上	17票

無記名その他	5票
②専攻別	
社会学	67票
産業心理学	39票
マスコミュニケーション学	55票
産業社会学	146票
不明	5票
③試験成績ランク別	
Q ₁ (下)	75票
Q ₂ (中下)	66票
Q ₃ (中上)	88票
Q ₄ (上)	74票
不明・不受験	9票

回収された評価票のうち、2年次生の票(167票)と3年次生の票(123票)合計290票を集計の対象とした(4年次生以上の票と無記名等の票は集計から除外した)。

集計にあたっては大学院生の内藤健一君、打田智幸君、梅津倫子君の全面的な協力を得ることができた。

集計の方法はつぎのとおりである。

〔1〕1テーマごとに区切った評価について

各授業テーマについて、7項目の評価項目ごとの回答の分布を、全体、学年別、専攻別、成績ランク別に求めた。

〔2〕1年間を通じた全体の評価について

5項目の評価項目ごとの回答の分布を求めた。自由回答欄に記入された回答の内容を分析した。

〔3〕授業のあり方についての意見について

自由回答欄に記入された回答の内容を分析した。

(5)

集計の結果の一部が表1〔テーマごとの評価〕と表2〔年間を通じた全体の評価〕に示

される。集計と分析の詳細については次回に報告する。

表1〔テーマごとの評価〕(%)

序	心理学の歴史と方法	1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
(評価項目)							
テーマと目的		.3	9.7	21.7	47.9	19.7	.7
解説の仕方		1.4	13.8	27.6	43.8	12.8	.7
興味		2.4	21.7	26.9	33.1	15.2	.7
理解		2.1	18.3	45.5	27.6	5.2	1.4
出席		3.8	17.6	21.4	25.5	30.3	1.4
予習・復習		65.9	18.6	10.7	2.8	1.4	.7
関連の読書		63.1	19.7	8.7	7.2	.7	.7
1 神経行動学							
(評価項目)		1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的		1.4	5.9	27.9	45.2	18.1	1.0
解説の仕方		2.1	10.7	32.1	43.5	10.7	1.0
興味		4.5	22.1	31.7	31.0	9.7	1.0
理解		2.8	25.9	35.5	29.0	5.9	1.0
出席		6.2	19.7	24.5	26.2	22.8	.7
予習・復習		61.7	21.7	10.3	4.5	1.0	.7
関連の読書		66.2	16.6	11.7	4.5	.7	.3
2 適応行動							
(評価項目)		1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的		.7	4.1	29.3	44.5	19.7	1.7
解説の仕方		1.4	7.3	36.2	41.4	11.7	2.1
興味		2.4	16.6	35.2	32.4	11.0	2.4
理解		1.7	14.1	40.3	32.4	8.0	3.5
出席		11.0	20.7	22.8	24.1	21.0	.3
予習・復習		66.6	16.6	12.4	2.4	.7	1.4
関連の読書		67.6	15.5	10.7	4.5	.3	1.4
3 初期経験							
(評価項目)		1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的		.3	3.5	21.7	41.0	32.4	1.0
解説の仕方		.7	3.5	28.3	39.3	27.2	1.0
興味		1.4	9.3	18.3	41.4	28.6	1.0
理解		2.8	6.9	28.6	44.5	15.5	1.7
出席		8.6	14.8	20.3	27.2	28.3	.7
予習・復習		59.0	18.6	16.2	4.5	1.0	.7
関連の読書		59.3	20.0	13.1	5.9	1.4	.3
5 意図的学習							
(評価項目)		1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的		1.0	4.5	20.7	40.3	31.0	2.4
解説の仕方		.7	5.9	30.3	39.3	21.7	2.1
興味		.3	10.0	27.9	37.6	22.1	2.1

学生による授業評価を行うための予備的探索（池田）

理解	1.4	13.1	29.0	37.9	15.5	3.1
出席	11.4	15.2	22.8	26.6	24.1	
予習・復習	59.0	19.3	11.0	8.3	2.1	.3
関連の読書	60.3	16.2	12.4	8.3	2.4	.3

6 実用的知能

(評価項目)	1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的	1.0	4.5	27.2	42.1	22.4	2.8
解説の仕方	.7	9.7	31.4	36.6	18.6	3.1
興味	2.4	12.1	30.3	33.8	18.6	2.8
理解	4.5	15.2	37.6	33.5	7.2	2.1
出席	18.3	16.6	18.3	25.9	20.7	.3
予習・復習	66.2	16.6	11.0	4.5	.3	1.4
関連の読書	68.3	14.1	9.3	4.5	.7	3.1

7 工作的知能

(評価項目)	1(わるい)	2(ややわるい)	3(どちらでも)	4(ややよい)	5(よい)	6(その他)
テーマと目的	.7	6.9	31.4	39.0	20.3	1.7
解説の仕方	.7	11.7	29.0	39.0	17.9	1.7
興味	3.1	14.1	27.6	34.1	19.3	1.7
理解	2.1	14.5	45.5	24.8	10.7	2.4
出席	10.0	16.2	19.3	29.7	24.8	
予習・復習	63.5	18.3	12.8	3.5	1.4	.7
関連の読書	69.0	13.8	11.0	4.8	.7	.7

表2 〔年間を通じた全体の評価〕(%)

1 役にたったか	1 (たった)	2 (たたない)	3 (その他)		
	89.7	8.3	2.1		
2 講義のレベル	1 (適切)	2 (適切でない)	3 (その他)		
	75.2	21.7	3.1		
3 技術面					
①声の大きさ	1 (適切)	2 (小さい)	3 (その他)		
	74.5	24.8	.7		
②話し方の速さ	1 (適切)	2 (速すぎ)	3 (遅すぎ)	4 (その他)	
	83.8	5.9	10.3	—	
③聞き取りやすさ	1 (聞きやすい)	2 (ふつう)	3 (聞きにくい)	4 (その他)	
	45.9	44.8	9.3	—	
④資料等	1 (適切)	2 (ふつう)	3 (不足)	4 (見づらい)	5 (その他)
	51.4	38.6	4.1	5.2	.7
⑤板書	1 (適切)	2 (ふつう)	3 (不足)	4 (読みにくい)	5 (その他)
	12.4	36.6	45.9	4.5	.7
4 教室の設備・環境	1 (よい)	2 (ふつう)	3 (わるい)	4 (その他)	
	22.4	58.3	14.8	4.5	
5 私語	1 (なかった)	2 (ある程度)	3 (うるさい)	4 (その他)	
	18.3	71.0	9.0	1.4	

（添付資料）評価票のフォーマット（B4判表裏印刷）

（おもて）

「平成10年度心理学概論」（担任者 池田）の授業についての評価

この授業評価は「平成10年度心理学概論」（通年4単位・担任者 池田）の講義についてのものです。この評価は学習成績の評価には関係しないので、客観的な態度でありのままに記入されることを期待します。授業評価の目的は、授業の改善・向上にあるので、責任を持って行ってください。

1. この授業の総合テーマは「知的機能」をめぐる問題です。年度初めに知らせた授業計画の順序にしたがって、テーマごとに示した項目の内容について評価してください。
 評価の方法は5段階で、該当する項目の番号を○で囲んでください。
 5. 良い 3. どちらともいえない 1. 悪い
 4. は5と3の中間 2. は3と1の中間
 としてください。

〔序 心理学の歴史と方法／「心理学」という用語について、「心」の概念の変遷、生気論の克服への過程、など〕

- | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (7)テーマに関連する読書や研究をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

〔1. 神経行動学／行動の制御システム、神経系の構造とはたらき〕

- | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (7)テーマに関連する読書や研究をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

〔2. 適応行動・走性、反射、定位、姿勢の制御、到達動作、移動動作、など〕

- | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (7)テーマに関連する読書や研究をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

〔3. 初期経験の効果／先天性解離機構、刷り込み、愛着行動、初期経験の効果〕

- | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (7)テーマに関連する読書や研究をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

〔4. 環境世界の認知／ 〕

このテーマは進行状況との関係で省きました。このテーマは〔5〕以下のテーマを考える上で不可欠なので、省いてははいけなかったと思います。年間の講義内容の配置と進め方の速度の配分を工夫の不足は反省事項の一つです。

〔5. 意図的学習／条件づけ、オペラント行動、課題解決行動、見通し学習〕

- | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (7)テーマに関連する読書や研究をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

〔6. 動物と幼児の実用的知能／環境世界の再構成、素材幾何と素材物理の洞察、道具の使用と製作〕

- | | | | | | |
|--------------------|----|----|----|----|----|
| (1)テーマと目的は明確であったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (2)解説の仕方は分かりやすかったか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (3)話された内容に興味を持てたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (4)話された内容が理解できたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (5)授業に出席したか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| (6)時間外の予習・復習をしたか | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

(うら)

(7) テーマに関連する読書や研究をしたか 5. 4. 3. 2. 1.

〔7. 工作的知能：道具から工具へ、言語の役割、環境世界の意図的操作〕

(1) テーマと目的は明確であったか 5. 4. 3. 2. 1.
 (2) 解説の仕方は分かりやすかったか 5. 4. 3. 2. 1.
 (3) 話された内容に興味を持てたか 5. 4. 3. 2. 1.
 (4) 話された内容が理解できたか 5. 4. 3. 2. 1.
 (5) 授業に出席したか 5. 4. 3. 2. 1.
 (6) 時間外の予習・復習をしたか 5. 4. 3. 2. 1.
 (7) テーマに関連する読書や研究をしたか 5. 4. 3. 2. 1.

このテーマは、言語の獲得の問題の途中までのあたりで時間が無くなって「環境操作」という重要問題について話すことができませんでした。

〔8. 論理的知能：概念的思考、思考と身体分離、論理的思考、論理と環境世界〕

このテーマについては、児童の論理的特質についてすこし触れた程度で、テーマの目的を達することができませんでした。もっともこのテーマそのものが大きな問題なので、通年の講義の後ろの方の少しの時間で考察すること自体が無理であったかも知れません。この点は、講義全体の構想をたてる上での反省材料です。

II. 年間を通じた講義の全体についてどう思いましたか。

〔1〕 心理学を知るうえで講義は役に立ったか 1. 役に立った 2. 役に立たなかった
 自由に意見を書いてください。

〔2〕 講義のレベルは適切であったか 1. 適切だった 2. 適切でなかった
 自由に意見を書いてください。

〔3〕 講義の技術面はどうであったか
 (1) 声の大きさは適切であったか 1. 適切 2. 小さすぎる
 (2) 話し方の速さは適切であったか 1. 適切 2. 早すぎる 3. 遅すぎる
 (3) 話し方、言葉づかいなど聞き取りやすかったか 1. 聞き取りやすい 2. 普通 3. 聞き取りにくい
 (4) 資料、映像などの提供は適切だったか 1. 適切 2. 普通 3. 不足 4. 見づらい
 (5) 板書は適切であったか 1. 適切 2. 普通 3. 不足 4. 読みにくい

〔4〕 教室の設備・環境について 1. 良い 2. 普通 3. 悪い
 自由に意見を書いてください。

〔5〕 私語について 1. なかった 2. あったが煩くない程度 3. うるさかった

III. この授業のあり方について自由に書いてください。

IV. 学籍番号(社 ー) 氏名()